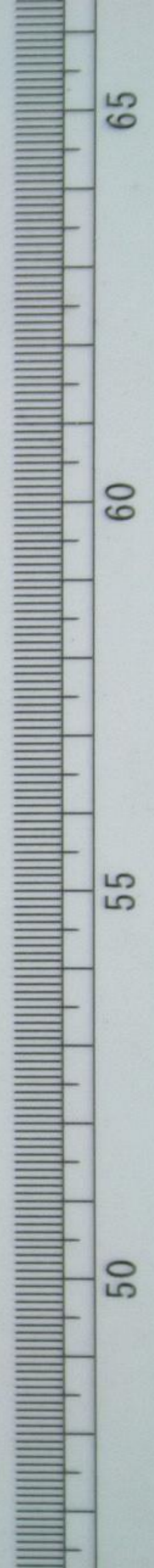


蕃山先生和歌
觀放生會記

飛驒山
檜垣寺古瓦記

五

13
907
45



門 113
 頁 907
 卷 45

蕃山先生和歌



蕃山先生和歌

附先生保侶蘇之圖

大正十五年十一月二十日
 花房仙文郎氏寄贈

熊澤伯繼 著

寛文七年の年こゝろ吉母山あゝちみ侍は

はいふゆふけ山のやまのふかきうめのふかきうめ

回一申のこゝろな

けいんぬきまを伴代のゆきと人のこゝろをあ

回一ゆきのゆきと人のこゝろをあ

こゝろのころのころのころのころのころの

寒中の梅のちかき香のちかき香のちかき香の

甘雨亭叢書川集 蕃山先生和歌

今も〜〜ひ〜〜ぬ柳の枝をた〜首師の人の心
極少泰山寺

ん〜人のあ〜海〜々山〜のう江世の外の日と〜
大和國方甲の里〜住〜は古国中川久清朝臣の
へあ〜の笛をた〜か〜

七の言〜た〜ん〜あ〜のあ〜ぬ〜ん〜
南都氷室のま〜あ〜ん〜

笛竹のあ〜ん〜く〜く〜く〜
あ〜ひ〜や〜ん〜ん〜ん〜ん〜
戊辰のま〜帰〜雁〜ん〜

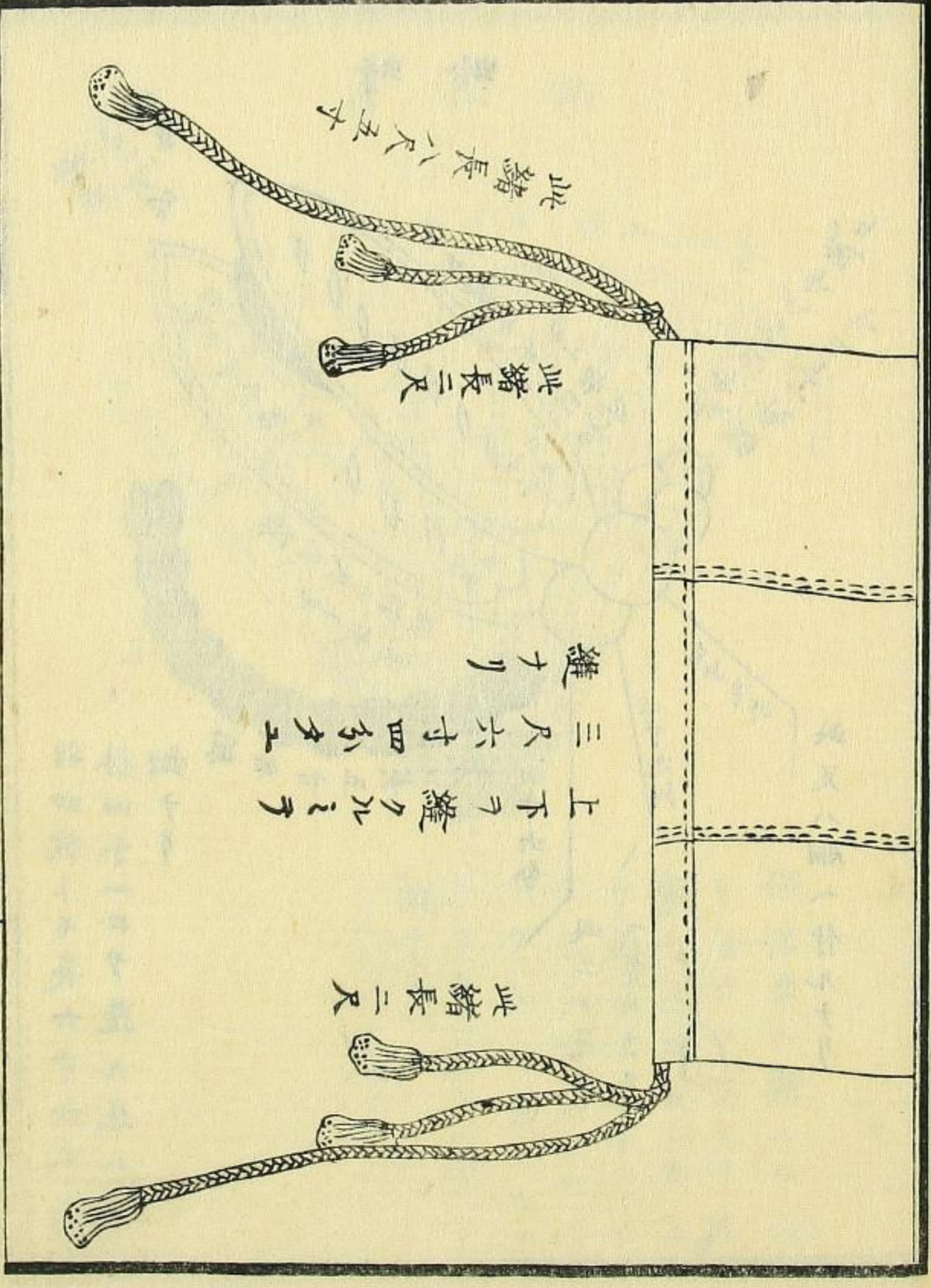
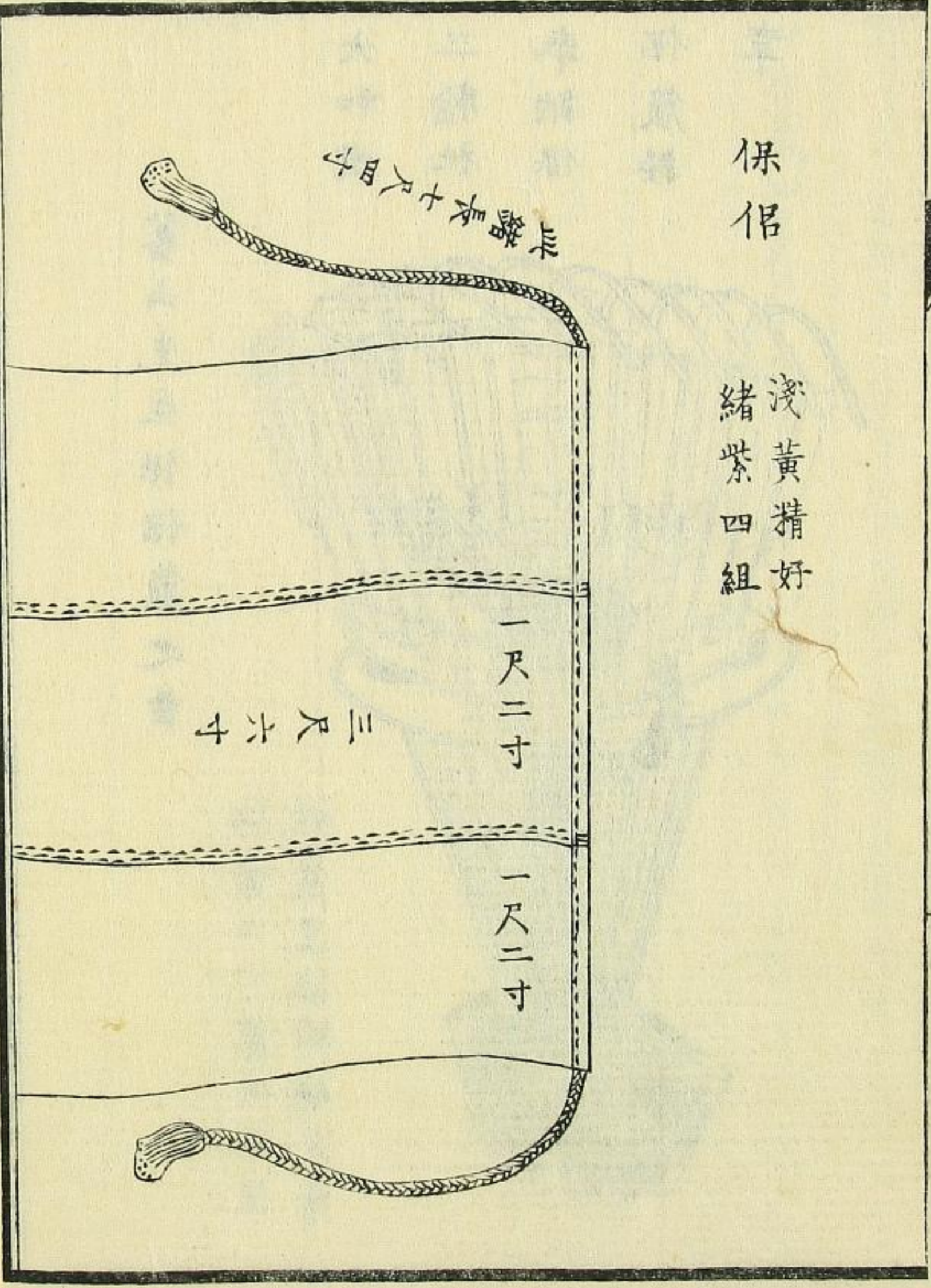
老の身は又〜ん〜ん〜ん〜
〜〜人〜のま〜ん〜ん〜ん〜
ゆ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜

元福のま〜め〜は〜ん〜ん〜
い〜ん〜ひ〜ん〜ん〜ん〜
二首の〜ん〜ん〜ん〜ん〜

〜は〜え〜ん〜ん〜ん〜
〜は〜ん〜ん〜ん〜ん〜

保侶

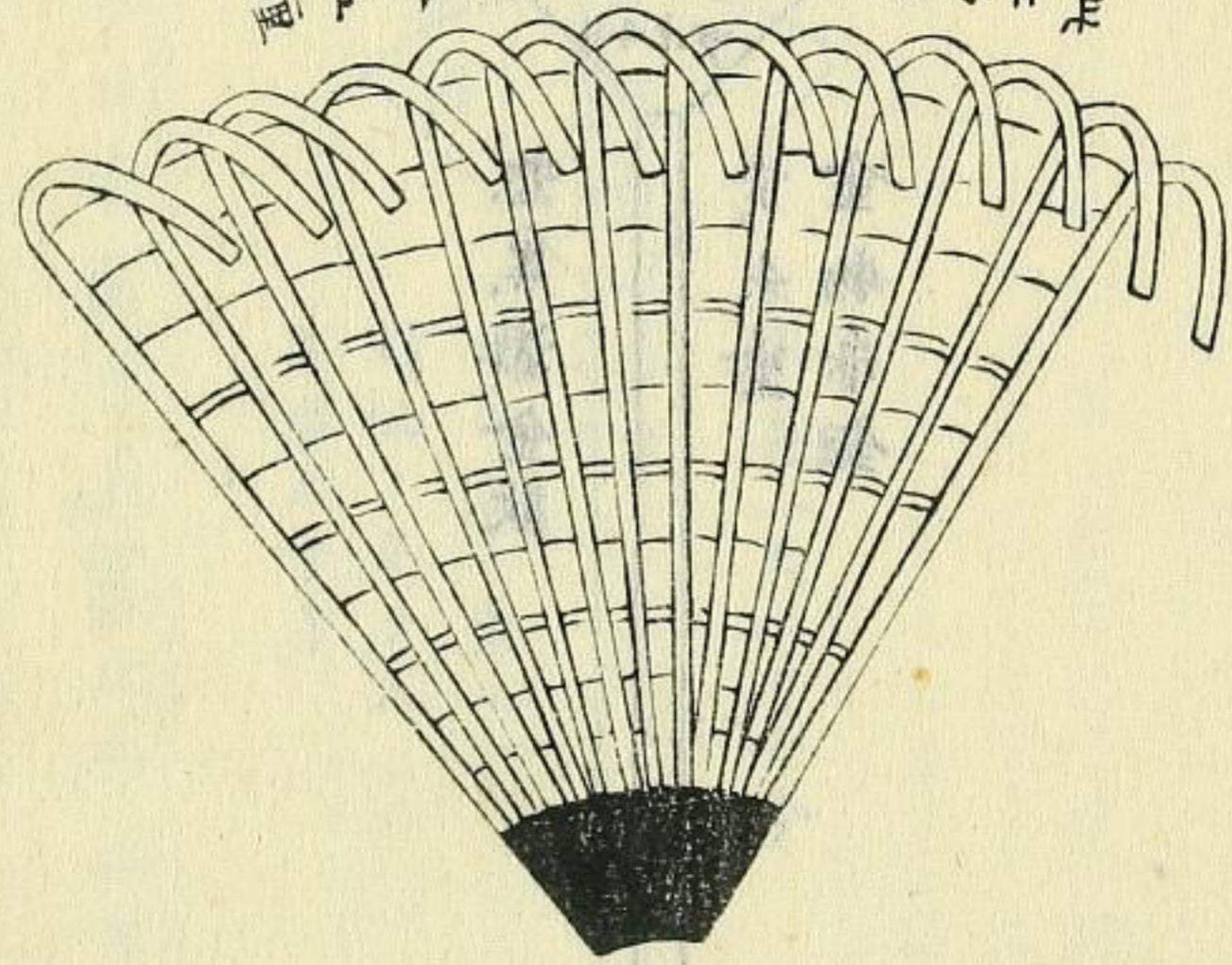
淺黃精好
緒紫四組



保侶箴之圖

保侶串

其ノ串長一尺七寸三分五厘



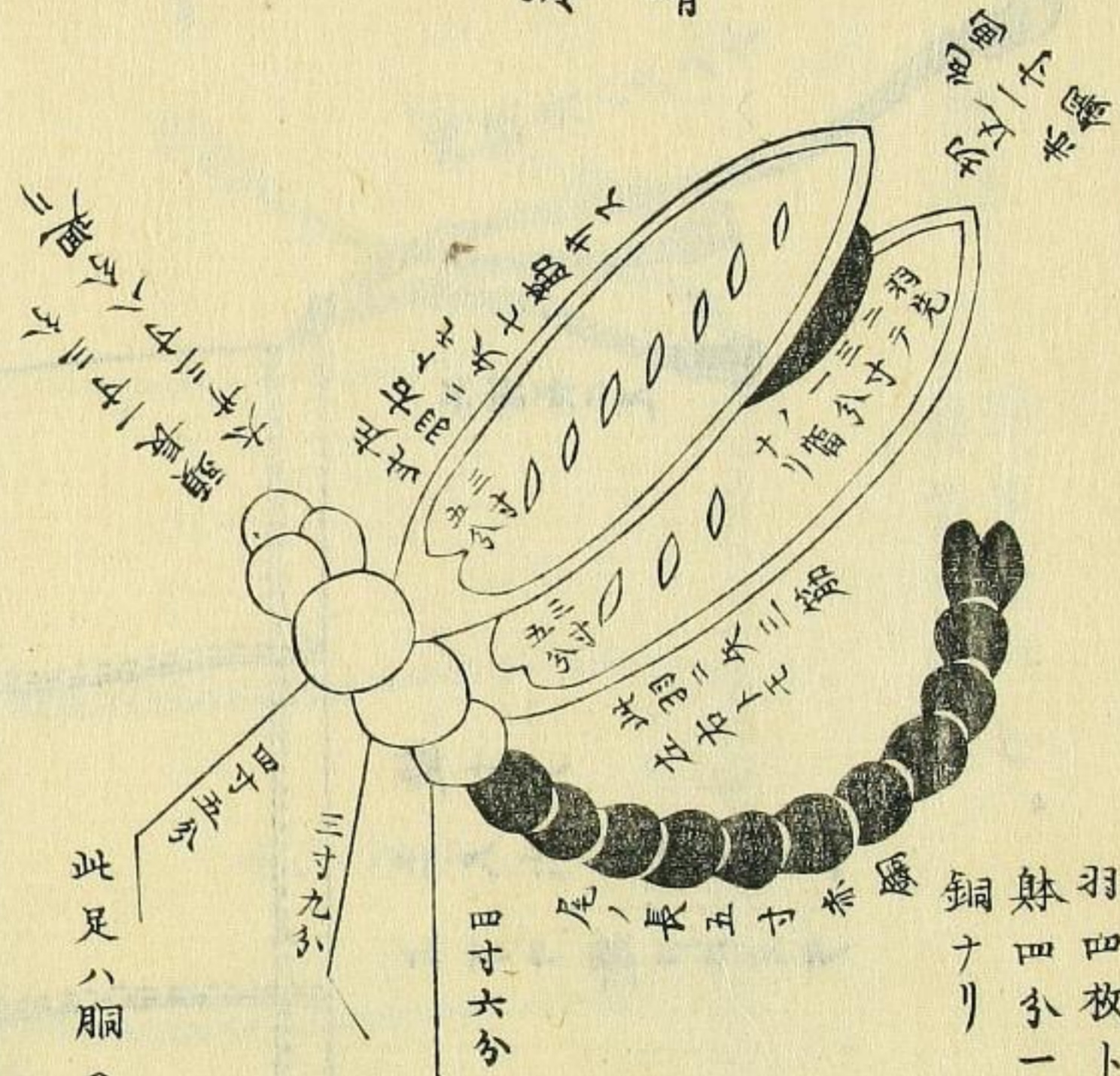
保侶串ハ鯨ニテ造
リ金タメ塗ナリ其
數十三本長二尺五
寸横ニ三本サレワ
タレテ其上ニテ前
ヘタラム串ニ成テ
アケテ紅ノ絲ニテ
縫ナリ

寸向書書別集

保侶籠之圖

三

蜻蛉



此足八腕へ付ルナリ

此二ノ足竿
へ付ルナリ

四寸六分

三寸九分

五寸四分

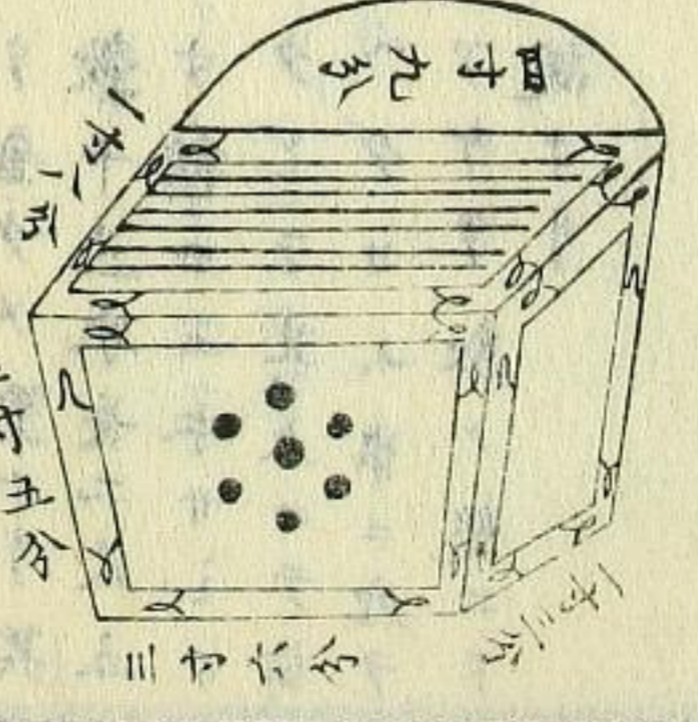
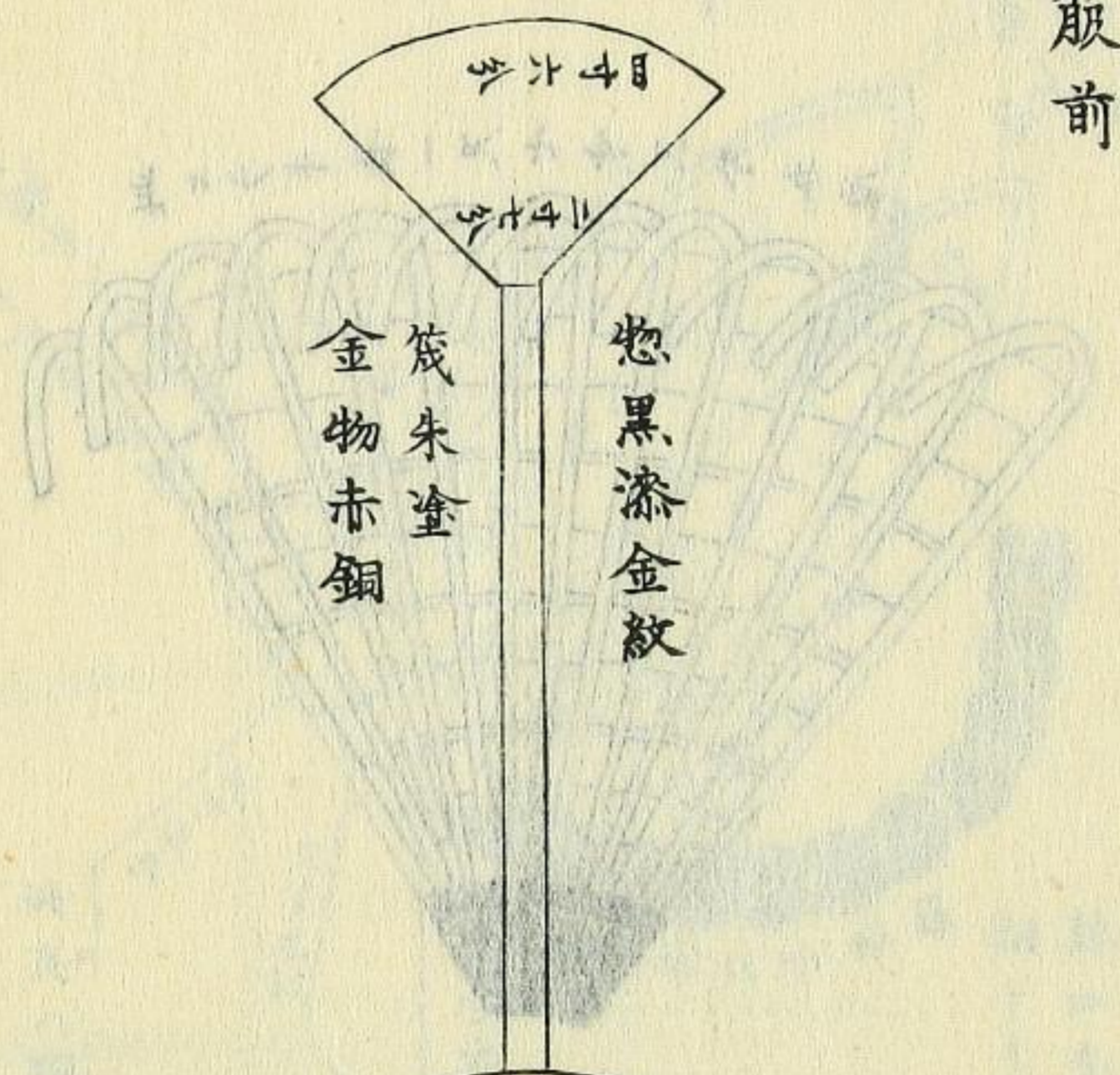
羽四枚トモ長六寸六分全
躰四分一二テ造ル尾ハ赤
銅ナリ

寸向書書別集

二

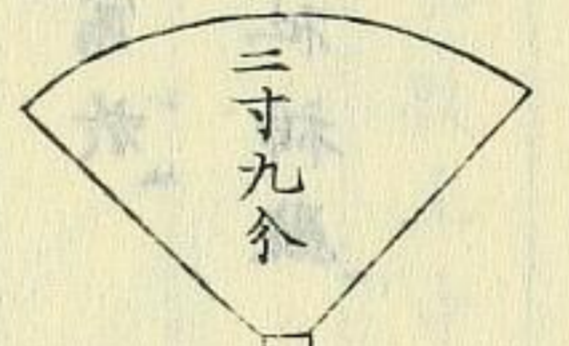
十日清書別集

箬前



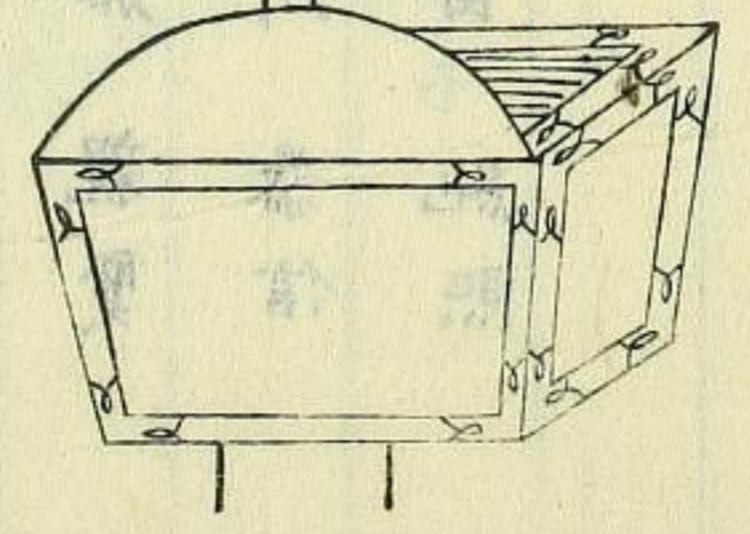
箬後

十
二
三
本
廿
四
目
二
寸
九
分



竿長一尺二寸七分

此左右ノ壺へ
蜻蛉ノ足ヲ入
テ付ルナリ



箱ノ底ニ鉄ノ足ニ本
アリ長二寸是ハ胴へ
付ル料

十日清書別集 保仙箬之圖

安永九年庚子九月二十三日

謹寫於

三輪社神殿

草加親賢

石川恭信

横田純熙

右保侶殿ハ蕃山先生熊澤了双納三輪社後の紋七星ハ熊澤

氏の紋ナリ世々大塔宮の紋ナリクモ非ナリ草加親賢の子

定濃宗楯師の苑をとけく官一のを

天明改元中秋

南畝子

天即西天中地
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

心
 禪
 山

飛驒山

飛驒山

飛驒山

物茂卿 著

飛驒の山中にむす人々のあはれあはれとけなす人も
 あり木立をばわたりてまぬまぬと物をまわりのやまに人々
 或る嵐師のやまにまけりけりけりけりけりけりけりけり
 思ふはかきかき其のたれに飛ぶか一羽のさやうとまけりけり
 さうしんかきかき七老のあはれにやめやめりの用と持てまけり
 めねまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 けねまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

村雨亭叢書別集

飛驒山

一五

の初ハ平の折門、秀郷……其むくろの相
馬……武藏……
な……
そ……
う……
す……
に……
は……
を……

う男丸を……
妻……
く……
そ……
あ……
けい……
物……
あ……
す……

くくたをひひくくは居あひく人きくくくく
芳野山の楳ハみ庭くくく花の華くく華くくの母くくく
山のくくくくくくくくくくく目の下くくくくく
あやくくくくく

はくくくくくくくくくくくくくくくくくく
物くくくくくくくくくくくくくくくくくく
人のくくくくくくくくくくくくくくくくくく
繪の具くくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくく
経文なくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

大田道灌の江戸の城を築く時くくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
寺くくくくくくくくくくくくくくくくくく

祝言寺とあり又ひつらとハ吉祥寺と名づけしを
 寺地を初くを吉祥寺の傍ハ心大なる人々
 地をひらくを其寺後ハ宗の三々の寺とてうら
 祝言寺のありハ膝をいふ人のいふありて其
 時法師をいふ人々ありて今世より
 ありハ寺の位もあつてなり

寛永の頃やあし上屋の園山和甲よりハ舟のつら
 西洋の國王の姫宮の降の園のつら
 舟のつら風をいふ我國乃瀛

舟のつら者も舟ハ
 長崎のつら
 後羅錦繡の海
 田川の紅葉のつら
 衣をえり
 物のやう
 風をいふ
 蟹の苦

うらの盒子やうの物のあはれありけりいづれやいづれとていづれ
の家舟よみん人のいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
けいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
物のありけりてせきをいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

すいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

幸つぬ目見とてと志の付と又ののれとて城
 華もあつたやうに鶴の内をさういぬとて
 水とてさういふとて南の山をさういふとて
 内堀伊豆とてさういふとて近江の園の信ありとて
 園とてさういふとて南部の家とてさういふとて領知とてさういふとて
 東井翁とてさういふとてそのひとてさういふとて
 年老とてさういふとてつとてゆつとてさういふとて
 有とてさういふとてさういふとてさういふとて
 何とてさういふとてさういふとてさういふとて

けいふとてさういふとてさういふとてさういふとて
 池とてさういふとてさういふとてさういふとて
 さういふとてさういふとてさういふとてさういふとて
 候とてさういふとてさういふとてさういふとて
 いひとてさういふとてさういふとてさういふとて
 さういふとてさういふとてさういふとてさういふとて
 大とてさういふとてさういふとてさういふとて
 うめとてさういふとてさういふとてさういふとて
 さういふとてさういふとてさういふとてさういふとて

飛驒山終

[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

親教生云記



観放生會記

観放生會記

太宰純 著

年以の形ひくく八幡の放生會をせんといふにけり清水の
の正法寺ノ顯譽上人より人々をよそをかせりてあつたてり
根のさやうひく新島の某をよそりひく八月十四日の末の時り
いふ事とあつて五條より高瀬舟にけりて申のやうに伏見
よりいぬあつて舟よりわたりて岸のけりりの所よりまゐり休て
又ふと舟よりいぬ淀川をりて日の入りに板川にけりていぬ
岸へのゆるゆるあ水よりゆる御旅所のけりりよりあつたてり

くろの勢よりそとて方丈の伊よりそとて人の衆よりそとて如くして信
初よりしてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
飲むとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
つとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
むとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
わくとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
音楽よりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
事とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
よりとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
中とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
物とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
のまといとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

くつらふもあはれゆきさりてくもあはれりてくもあはれりて
 あはれをを免於しゆりぬ寺に月名をて方丈の南面を山が
 かに居り上人あはれりて法師也てりてりてりてりてりてり
 引らりて居るを物りて身物あはれは居るをりてりてりてり
 今振るをりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 折るを秋をりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 えりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 中もあはれりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 の日ハ生類を移り神事ありてりてりてりてりてりてりてり
 放生川より川のほとりりりりりりりりりりりりりりりりり
 餓鬼の法をりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ちをりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 かくて居るを川に居る先 帝の居るをりりりりりりりりり
 家の居るをりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 居るをりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 居るをりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 了林をりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 居るをりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

松煙与木炭
凡礼

觀放生會記終

廿兩
平糶
請
辨
傳

六

檜垣寺古尾記

檜垣寺古尾記

服部元喬 著

ひさきのむらさきの... 後撰集天和物語...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...
の... け... 寺... あり...

さきしたる... 海はけほりす... 今もこの頃の... 世をどうも... みはなれり...

寶曆八年

七ヶ古の翁

魁

この山に... 全化院の上... 水... を先生の義子... 一と云ふ山の... 一と云ふ山... 此の山... 文化四年丁卯四月小盡

五ヶ九翁香花園

早稲田大学図書館

011888006437